

魚病診断結果

坂下奨悟・田中真二・畑直亜・岩出将英・井分達郎・辻将治

目的

県内の養殖魚等の魚病発生状況を把握するとともに、その対策指導を行い、魚病被害の軽減を図ることを目的とする。

方法

令和6年4月～令和7年3月に水産研究所、同尾鷲水産研究室および同鈴鹿水産研究室に診断依頼のあった魚介類について、病気の診断を行った。

結果

今年度の総診断件数は274件（海産魚271件、淡水魚3件）で、過去10年間の平均（約301件）と比べて少なかった。

魚種、魚病別の診断結果を表1～7に示した。

マダイ（表1）では、本年度はマダイイリドウイルス病が確認されなかった（令和5年度31件）。細菌病では、レンサ球菌症（β型）が最も多く確認された（令和5年度0件、令和6年度27件）。寄生虫病では、白点病が最も多かった（令和6年度8件）。

ブリ（表2）では、ノカルジア症が確認され、昨年度よりも微増した（令和5年度2件、令和6年度6件）。ミコバクテリア症についても、昨年度よりも微増した（令和5年度1件、令和6年度3件）。レンサ球菌症（αII型）は、平成30年度から令和2年度にかけて増加傾向であったが、本年度は3件であり、昨年度に続き少なかった。

シマアジ（表3）では、レンサ球菌症（αI型、αII型）は昨年度と同様に発生件数が少なかったが、当県では令和4年度に初めて確認された新型のレンサ球菌症（αIII型）が25件と多発した。

マハタ（表4）では、ウイルス性神経壊死症（VNN）の診断件数は昨年度から微増した（令和5年度5件、令和6年度9件）。

クロマグロ（表5）では、レンサ球菌症（αI型）が確認されたが、昨年度より減少した（令和5年度6件、令和6年度5件）。また、これまでと同様、脊椎骨折も確認された。

ヒラメ（表6）では、令和3年度に当県で初認されたアクアレオウイルス感染症は、昨年度に続き確認されなかった。

主要病原菌の薬剤感受性試験結果を表8に示した。エドワジエラ症原因菌では、ホスホマイシンカルシウムの感

受性検査に供したマダイ由来株、ホスホマイシンの感受性検査に供したヒラメ由来株で感受性が低かった（+または++）。レンサ球菌症（αI型、αII型、αIII型）原因菌では、αI型、αIII型で塩酸オキシテトラサイクリンの耐性菌と、塩酸リンコマイシンへの耐性菌が確認された。また、αIII型で塩酸ドキシサイクリンへの耐性菌が確認された。

上記の魚病診断とは別に、マダイの健康診断依頼が9件あった。コイヘルペスウイルス病については、診断依頼が1件あったが、陰性であった。また、ヒラメの放流用種苗のクドア症（*Kudoa septempunctata*）検査を2件行ったところ、全て陰性であった。

表1. マダイの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
ウイルス病	VHS	0													2	2
	エドワジエラ症	1													2	2
細菌病	エビテリオシスチス症	0			5	2	1			1					9	4
	潰瘍細菌症	1			1	2			1						4	1
	レンサ球菌症（β型）	0													3	3
	潰瘍細菌症	0			1										1	2
	レンサ球菌症（β型）	0					7	1							8	8
	レンサ球菌症（αI型）	1						15							15	4
	レンサ球菌症（αII型）	2						4							4	1
	スクーチカ症	2		1											1	1
	ヒバギナ症	0			2										2	4
	ヒバギナ症	1													1	1
寄生虫病	クビナガ鉤頭虫症	2	1												1	3
	住血吸虫症	0	1		2	1									4	4
	心臓ヘネガヤ症	0			1			1							2	2
	白点病	0						1	4	1					6	2
	白点病	2								2					2	2
	ベネデニア症	1			1										1	1
	リンパ性白血病	0								1	1				2	2
	眼の欠損による衰弱	0							1						1	1
	体表潰瘍	1		1											1	1
	体表潰瘍	2		2											2	2
その他	不明	0		1		4	5	3	2						15	8
	不明	1		2	2	2	2	1	1						8	3
	不明	2			1			1	1						3	2
	不明（エドワジエラ症？）	1						2							2	3
正常魚	0			3										3	3	
計	1	1		3	4	11	17	9	44	13	8	1	0	0	7	117

表2. ブリの診断結果

病名	月別診断件数													計
	年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
細菌病	ノカルジア症	1	1	2	1	1								5
	ミコバクテリア症	2						1						1
	レンサ球菌症 (α I型)	1				1								1
	レンサ球菌症 (α II型)	2				1		1						2
	類結節症	1				1								2
	ハダムシ症	0		1					1					2
	ヘテラキシネ症	0							1					1
	不明	1			1									1
	住血吸虫症	0								1				1
	寄生虫病	1	1											1
その他	粘液胞子虫性側弯症	2		1										1
	脳クドア症	0							2					2
	白点病	2							1					1
	不明	0							4					4
	不明 (ワクチン接種によるストレス?)	1		1	1	1								5
	不明	1		1	1	1								3
	不明	2						1						1
	不明 (ワクチン接種によるストレスor栄養不足)	1		1										1
	不明	0		1										1
	計	0	3	13	3	4	3	7	0	12	0	0	5	50

表3. シマアジの診断結果

病名	月別診断件数													計
	年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
細菌病	ミコバクテリア症	1								1				1
	レンサ球菌症 (α I型)	2								1				1
	レンサ球菌症 (α II型)	0				1								1
	レンサ球菌症 (α III型)	1					1							1
	滑走細菌症	0				2	8	3	1	1				15
	不明	1		2				4	3	1				10
	寄生虫病	0				1								1
	吸血性旋回病	1				1								1
	正常魚	0				1	6	1						8
	不明	1				1				1				2
その他	不明	0				1	1							2
	不明	1			1	2		2						5
	不明	2				1								3
	計	0	0	3	8	10	16	7	4	4	0	0	0	52

表4. ハタ類の診断結果

マハタ

病名	月別診断件数													計
	年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
ウイルス病	VNN	0					1	2	4	1				8
	不明	1					1							1
細菌病	ビブリオ病	0					1			1				2
	ミコバクテリア症	1								1				1
	ハダムシ症	0				1	1	2						4
寄生虫病	不明	1						1	1					2
	白点病	0								1				1
その他	不明	0				1								1
	不明	1				2								2
計	0	0	0	2	4	4	7	5	0	0	0	0	22	

クエ

病名	月別診断件数													計
	年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
細菌病	ビブリオ病	2								1				1
寄生虫病	白点病	2								1				1
計		0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	

表5. クロマグロの診断結果

病名	月別診断件数													計
	年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
細菌病	レンサ球菌症 (α I型)	1								1				1
	不明	2			2	2								4
	脊椎骨骨折	1						2						2
その他	不明	2								3				3
	不明	1	1											1
	不明	2			1	1								2
	不明	3				1								1
計		1	0	3	6	0	4	0	0	0	0	0	14	

表6. ヒラメの診断結果

病名	月別診断件数													計
	年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
細菌病	エドワジエラ症	0								1				1
	滑走細菌症	1					1	1						2
	アミルウージニウム症	0		1										1
寄生虫病	イクチオボド症	0		1	1					1				1
	スクーチカ症	0		1							1			2
	不明	2	1											1
	不明	1	2	2	1	0	2	2	0	0	0	0	0	10
	計		1	2	2	1	0	2	2	0	0	0	0	10

表7. その他の魚種の診断結果

病名	月別診断件数													計
	年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
寄生虫病	白点病	0								1				1
	トラフグ小計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	不明	0				1	2							3
その他	アユ小計	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	不明	0				1								1
	マアジ小計	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
細菌病	レンサ球菌症 (α I型)	1								1				1
	マアジ小計	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	不明	0												0
寄生虫病	筋肉微胞子虫症	0								1				1
	イセエビ小計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	合計	0	0	3	3	0	0	1	0	0	0	0	0	7

表8. 主要病原菌の薬剤感受性試験結果

エドワジエラ症 原因菌 (マダイ)					
薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
テトラサイクリン	1	1	2	8	12
ホスホマイシンカルシウム		10			10
ドキシサイクリン			1	3	4

エドワジエラ症 原因菌 (ヒラメ)					
薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
塩酸オキシテトラサイクリン				4	4
ホスホマイシン		1	1		2

β 溶血性レンサ球菌症 原因菌					
薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
塩酸オキシテトラサイクリン				5	5
テトラサイクリン				12	12
エリスロマイシン				16	16
塩酸リンコマイシン				1	1
チアンフェニコール				1	1
フロルフエニコール			1	15	16
塩酸ドキシサイクリン				13	13

α 溶血性レンサ球菌症 原因菌 (α I)					
薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
エリスロマイシン				8	8
塩酸オキシテトラサイクリン	1			7	3
チアンフェニコール				2	3
フロルフエニコール				5	3
塩酸リンコマイシン	1	1	6		3

α 溶血性レンサ球菌症 原因菌 (α II)					
薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
エリスロマイシン				3	3
テトラサイクリン				3	3
フロルフエニコール				3	3
塩酸ドキシサイクリン				3	3
アンピシリン		1			1

α 溶血性レンサ球菌症 原因菌 (α III)					
薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
エリスロマイシン			5	21	26
塩酸オキシテトラサイクリン	2			4	6
テトラサイクリン		1		19	20
チアンフェニコール			3	2	5
フロルフエニコール		3	6	12	21
塩酸ドキシサイクリン	1		1	23	25
塩酸リンコマイシン	7				7

ビブリオ病 原因菌					
薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
エリスロマイシン				1	1
テトラサイクリン			2	1	3
チアンフェニコール				3	3
スルファモノメトキシ		1		1	2

ノカルジア症 原因菌					
薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
テトラサイクリン				1	1
スルフィソゾールナトリウム	1		1		2
スルファモノメトキシ	2			1	3